

教材名（活動名） お茶について調べたことから キャッチコピーをつくろう	学 校 名	沼津市立門池中学校
	学年・人数	1年生 28人
	教 科 等	総合的な学習（言語読解）
実施時期 平成27年5月	授 業 場 所	1年教室
	連 携 機 関	なし
ねらい		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産物「お茶」について、関心をもち、お茶小字典の内容を読み取る。</li> <li>・読み取った内容について、キャッチコピーをつくり、班で発表をする。</li> </ul>		
学習（活動）内容		
<p>1 新聞記事「病気死亡のリスク緑茶で最大4割減」（平成27年5月9日静岡新聞）の内容を読み取ろう。</p> <p>(1) お茶について知っていることを聞き、新聞記事を配布し、キーワードに線を引く。</p> <p>(2) 記事の内容を確認する。お茶のパワーに関心をもたせる。</p> <p>ア 「お茶を飲んでいる人は病気で死亡する危険度が減る。」</p> <p>(3) 「静岡県は『健康寿命』が日本一であること」健康寿命について、生徒に尋ね確認をする。</p> <p>(4) お茶についての俳句（松尾芭蕉）を示し、5・7・5で新聞記事の内容を表現してみよう。心に残るような、テンポの良い、分かりやすい言葉を探そう。（個）</p> <p>(5) 俳句の簡単な説明、芭蕉の句については簡単にふれる。</p> <p>2 もっとお茶について調べて、いろいろなキャッチコピーをつくって発表しよう。</p> <p>(1) 「お茶小字典」から資料を用意し、各班で調べたい内容を選び、キーワードを見つけてプリントに記入、その内容について5・7・5でキャッチコピーを班でつくろう。</p> <p>ア お茶のこといろいろ</p> <p>イ お茶の成分</p> <p>ウ お茶の健康効果</p> <p>エ お茶の歴史</p> <p>オ お茶の利用</p> <p>カ お茶の生産</p> <p>キ お茶に関わる言葉</p> <p>(2) 班の中で、お互いに読み取った内容から、キャッチコピーを見せ合い、良いものを黒板に書き出して代表者が発表をする。協力して作れるような雰囲気を目指す。</p> <p>(3) 時間があれば、みんなで音読を楽しむ。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">       生徒のキャッチコピーは、次頁にあります。     </div>		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なお茶について、その効用を知り、興味をもつことができた。</li> <li>・読み取った内容を、俳句調でキャッチコピーをつくる課題に対して、指折り数えて、楽しんでいる様子が見られた。予想以上に作品を作ることができた。</li> </ul>		

## 留意点

- ・新聞記事の読み取りは、1年生にはやや難しい語句が多かった。
- ・資料が1セットの用意であったので、調べたい内容が選べない班もあった。

新聞記事「病気死亡のリスク緑茶で最大4割減」から

- ・お茶飲んで 元気になるよ おとうさん
- ・静岡の お茶を飲んだら みな元気
- ・古くから 健康成就 茶の秘訣
- ・お茶飲んで 長生きしよう いつまでも
- ・驚きだ お茶飲むだけで 健康に

「こどもお茶小字典」の読み取りから

### ① お茶のこといろいろ

- ・伝統の 味と世界の 茶の違い
- ・このお茶で お祝いしよう 百八歳

### ② お茶の成分

- ・お茶飲めば 朝から元気な 中学生
- ・お茶の味 うま味・苦み 渋みもね

### ③ お茶の健康効果

- ・お茶飲んで 眠気を覚まし 危機回避
- ・お茶飲むと テアニン効果で リラックス

### ④ お茶の歴史

- ・<sup>えいさい</sup>栄西が 日本で初めて お茶広め
- ・<sup>かみのうてい</sup>神農帝 お茶の葉かんで 毒消した
- ・将軍の 酔いを醒ました 日本の茶

### ⑤ お茶の利用

- ・お坊さん 目覚まし効果で 早起きだ
- ・昔はね 庶民は飲めない 高級品

### ⑥ お茶の生産

- ・日本一 お茶を飲むのは 静岡県

### ⑦ お茶に関わる言葉

- ・お茶言葉 茶々を入れずに 覚えたい

○駿河路や 花たちばなも  
茶のにおい  
○馬に寝て 残夢月遠し  
茶のけぶり  
松尾芭蕉

教材名（活動名） 「お茶摘み」	学 校 名	富士市立富士川第一中学校
	学年・人数	1年生 31人
	教 科 等	道徳
実施時期 平成27年5月中旬	授 業 場 所	教室
	連 携 機 関	なし
ねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭内で仕事を受け持つことの喜びに気づき、どんな仕事にも価値を見出し、積極的に取り組む態度を養う。</li> </ul>		
学習（活動）内容 1 学習活動の流れ (1) 導入 【お茶についてのアンケート結果】 <ul style="list-style-type: none"> <li>お茶が好き…22人 普通…5人 嫌い…3人</li> <li>家ででの食事の時にお茶を飲む…17人</li> <li>今朝、お茶を飲んできた…13人</li> <li>家、親戚に茶畑がある…3人</li> <li>お茶摘みしたことがある…11人（幼稚園の行事 9人 手伝い 3人）</li> </ul> (2) 展開 資料「お茶摘み」を読んで話し合う。 ア お茶を摘み始めた時、どんなことに気付いたか。 イ 祖父のやり方をまねて、ずっと摘み続ける私はどんな気持ちか。 ウ 車に乗るとき、後ろを振り向いた時、私はどんな気持ちか。 2 生徒の感想（お茶に関する部分の抜粋） <ul style="list-style-type: none"> <li>僕は、幼稚園でお茶摘みをやったことがあります。摘むのが大変でしたがこの話を読んで、お茶摘みをもう一度やりたいと思いました。</li> <li>自分がお茶を飲む時に、このお茶にたくさんの人々が関わっていてすごいなと思いました。お茶が飲める有難みを感じました。</li> <li>お茶がよい香りがした。幼稚園の時のお茶摘み、お茶の取り方を思い出せてよかったです。</li> <li>お茶摘みを面倒くさがっていた主人公もお茶摘みのスキルを習得しようとしていた。静岡県民として誇りに思いました。</li> <li>お茶摘みはしたことがないけれど、お茶は好きです。自分も静岡県民としてお茶を誇りに思いました。</li> <li>お茶摘みは、1回幼稚園の時にしたけど葉の見分け方が難しかったです。</li> </ul>		
成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>お茶が好き、よく飲んでいる、という生徒が予想より多くいた。</li> <li>本教材でお茶摘みの大変さを知り、普通に飲んでいたお茶への気持ちが深まった。</li> <li>幼少期等に体験したことをもとに、教科等で取り扱ったことで、お茶に対する気持ちが深まった。</li> </ul>		
留意点 特になし		

教材名（活動名） お茶をおいしく淹れてみよう	学 校 名	松崎町立松崎中学校
	学年・人数	1年 31人
	教 科 等	学級活動
実施時期 平成27年2月中旬	授 業 場 所	調理室
	連 携 機 関	日本茶インストラクター協会
ねらい		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県の特産物であるお茶について理解を深める。</li> <li>・お茶をおいしく淹れる手順が分かる。</li> </ul>		
学習（活動）内容		
<p>1 お茶について知ろう</p> <p>(1) お茶の種類（緑茶・ウーロン茶・紅茶）について</p> <p>(2) お茶の効能について</p> <p>2 お茶のおいしい淹れ方のデモンストレーションを見てみよう</p> <p>(1) 道具の説明（茶器の名称、急須のもち方、火傷に注意等）</p> <p>(2) 淹れ方のポイントを知る</p> <p>ア 一煎目の淹れ方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶の温度（湯気の揺れ方、お茶碗を持ってみる。）</li> <li>・茶葉の量（1人ティースプーン1杯）</li> <li>・浸出時間（45秒数える。）</li> <li>・まわし注ぎ（1, 2, 3, 3, 2, 1）</li> <li>・最後の一滴（急須は振らない。）</li> </ul> <p>イ 二煎目の淹れ方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポット→湯冷まし→急須</li> </ul> <p>ウ 三煎目の淹れ方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポットから直接</li> </ul> <p>3 自分たちでお茶を淹れてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人1組でお茶を淹れる</li> </ul> <p>4 飲み比べをして、感想を発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お湯の温度と淹れ方によって味が違うことがわかった。</li> <li>・一煎目のお茶は甘味が感じられた。</li> </ul>		
		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶に親しみを感じる生徒が増え、家庭でお茶を淹れる生徒もみられた。</li> <li>・ゆっくり味わって飲むことのよさを感じることができた。</li> <li>・お茶の実や枝付き茶葉などを初めてみる生徒も多く、興味をもつことができた。</li> </ul>		
留意点		
お茶についての説明が長くならないよう、時間配分に注意する。		